

広島県公立高校入試徹底分析【理科】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	2025年度に小問集合の大問が①に加わり，それまでの大問4題構成から大問5題の構成となった。ただし，小問数はやや減って23問となっている。配点も例年通り小問集合を含めて生物12点・物理12点・化学13点・地学13点とほぼ均等になっている。大問が1つ増えたこともあり，ページ数は昨年に続き14ページと多くなっている。1問あたりの文章量が増えているので，よりの確に実験・観察の内容を読み取り，理解する必要がある。		

	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)
問題量 (A4で)	14ページ分	14ページ分	10ページ分	11ページ分	13ページ分
小問数	23問	25問	24問	26問	24問
論述問題の数	4問	4問	3問	5問	10問
論述問題配点	8点	9点	8点	11点	22点
受験者平均点	25.8点	26.2点	26.1点	25.3点	18.8点

【出題の傾向と対策】

① 中1～中3の全学年・全分野が問われている。

R8 分野別出題状況 大問2～5で問われていない分野を小問集合の大問1で問う形になっている。

	物理	化学	生物	地学
中1	大問5	大問1の3	大問1の5	大問3
中2	大問1の2	大問4	大問1の6	大問1の8
中3	大問1の1	大問1の4	大問2	大問1の7

小問集合の大問1が加わることで，中1～中3の物理・化学・生物・地学すべてからの出題になっている。(R7年度も同じ。) 苦手単元を中心に，全学年・全単元の学習が必要である。

② 正答率の低い問題も実験結果や会話の流れからヒントを得られる問題が多い。

R4 ①3 (問題文一部変更) …前略…運動時は安静時と比べて，心拍数の他に何がどのように変化していると考えられますか。(正答率11.0%)

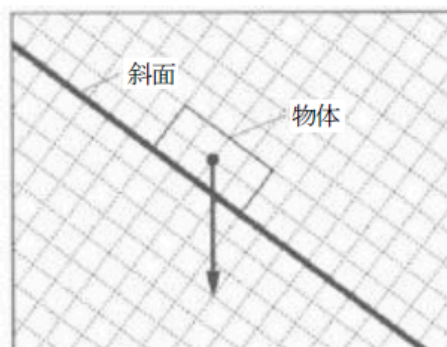
長い会話文の中には，①1分間に心臓から送り出される血液の量は，「1分間の心拍数」と「1回の拍動で送り出す血液の量」の積でもとめることができること。②心拍数が安静時の70回から192回に増えても血液量の理論値24.5Lに全く足りないこと。が書かれているため，これに気づけば「1回の拍動で送り出す血液の量」が変化していることはわかる。

限られた時間の中での確に必要な情報を拾い出す読解力が必要。ある程度知識が備わってきたら時間をはかりながらなるべく多くの実践問題にチャレンジしよう。

③ R7年度こそ出題されなかったが作図問題は頻出。指示されたルールを厳守し、丁寧な作図を心がけよう。

R8 11 (問題文一部変更)

右図は、斜面においた物体が静止している様子を示したものであり、図中の矢印は、この物体に働く重力を示しています。この物体に働く重力を、斜面に平行な分力と斜面に垂直な分力に分解し、それぞれの分力を図中にかきなさい。

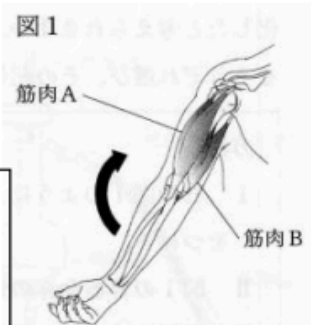


R3年はグラフのかき方と回路図の作図、R4年は光の反射・屈折における光の道すじの作図、R5年は化学変化のモデルの作図、R6年は胚珠の位置を示す作図、R8年は力の分解の作図と、分野も内容も様々である。広く作図問題に挑戦し、慣れておこう。

④ 文章の中における空欄補充型の論述問題がよく出題されている。

R7 34 (問題文一部変更) …前略…文章中の a に当てはまる内容を、「関節」の語を用いて簡潔に書きなさい。また、b に当てはまる内容として適切なものを、下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

右の図1のように、筋肉Aと筋肉Bはともに両端がけんになっており、一方の端は肩側の骨に、もう一方の端は手首側の骨につながっている。このように筋肉Aと筋肉Bはともに a につながっている。図1の状態から腕を (黒い矢印) の向きに曲げるとき、b 。



- | | |
|------------------|------------------|
| ア 筋肉Aも筋肉Bも縮む | イ 筋肉Aが縮み、筋肉Bがゆるむ |
| ウ 筋肉Aがゆるみ、筋肉Bが縮む | エ 筋肉Aも筋肉Bもゆるむ |

しっかりと知識を身につけるだけでなく、前後の文章とのつながりや与えられたルールを意識しながら記述する訓練が求められる。

解答

R4 13 1回の拍動で心室から送り出される血液の量が増えている

R8 11 右図参照[完答]

R7 34 a 関節をまたいで別々の骨[同意可] b イ

